

**令和6年度「KYOTO Innovation Studio」企画運営業務の
受託候補者選定に関する公募型プロポーザルへの質問の回答について**

質問	回答
1 KYOTO Innovation Studio Session 企画・運営に関して (1) 事業者がゲストスピーカー及びテーマ等を企画・提案したうえで、京都市やアドバイザーの要望等を踏まえ、調整する想定で良いか。 (2) Session の特性として、人数に上限や集客人数の KPI はあるか。 (3) Session のテーマや内容は、session 後のアンケート結果を踏まえて集計等のフィードバックを受けて調整することはあるか。 また、調整に際し、入山アドバイザーと定期的に会議などを行える機会があるか？ (4) Session への参加者は、事前参加登録等で、事業者が取りまとめる理解で良いか。 (5) session 企画を年4回以上開催しても問題ないか。 (6) ゲストスピーカーへの謝礼に上限や基準はあるか。	(1) 御理解のとおりです。 (2) KPI の設定はありませんが、人数よりもどんな方に参加いただけたが重要であると考えています。また、上限については、会場のキャパシティ踏まえて都度定めています。 (3) Session のテーマは御提案時から、調整することはありません。また、入山アドバイザーとの定期的な協議の機会があります。 (4) 御理解のとおりです。 (5) 企画内容にもよりますが、基本的に問題ありません。 (6) 本事業における謝礼の金額は過去から一定額に固定しています。詳細は、契約後にお伝えします。
2 スピンオフ企画や分科会等について (1) スピンオフや分科会等、ビジネス創造の数などに、KPI はあるか。 (2) 公開されているホームページに、スピンオフ企画は含まれているか。	(1) KPI の設定はありません。数よりも内容を重視します。 (2) 現状公開しているホームページにスピンオフ企画は含まれていません。
3 広報活動について (1) 広報目的の「ブランディングや集客」は、本事業の認知度アップや Session の参加者増と理解するが、Session 参加希望者増加の KPI はあるか。また、広報ターゲットは、スタートアップ／企業に関心がある層であれば、幅広い年齢層で良いか。もしくは、特に学生等の若年層を重点的に行うなど、京都市からの希望はあるか。	(1) 上記1の(2)と同様です。広報ターゲットについては、KYOTO Innovation Studio の趣旨に共感いただける方々（企業、学生、アカデミア、クリエイター等）を想定しており、スタートアップ・起業に特化しているものではありません。

(2) 昨年の仕様書から、SNS の運営が追加されているが、参加者同士の交流や問合せにおいて、SNS の活用が一定以上の必要性があるということか。 (3) 現行の Facebook や X 以外の SNS アカウントを新たに発行・運用することは可能か。	(2) SNS は、交流ではなく、ブランディング等に資する広報媒体としての活用を想定しています。 (3) 契約後の協議において決定します。
4 動画コンテンツやレポート記事に関する企画・取材・編集など、 (1) 動画の内容・構成において、事業者がテーマやシナリオをすべて用意して、アドバイザーや京都市ご担当者フィードバック等の調整が必要かと理解していますが、1つのコンテンツにかかる打合せ・調整期間は、通常どれくらい掛かる想定か。 (2) 動画コンテンツや取材の相談などのため、受託事業者には、入山アドバイザーを繋いでもらえるのか。	(1) 提案内容にもよるため、一概に期間を設定できるものではありませんが、コンテンツ内容の調整、取材先調整、取材、動画・レポートの作成と相応の期間を要するものと御理解ください。 (2) 特段のリレーションがない限り、本市において相談等を行います。